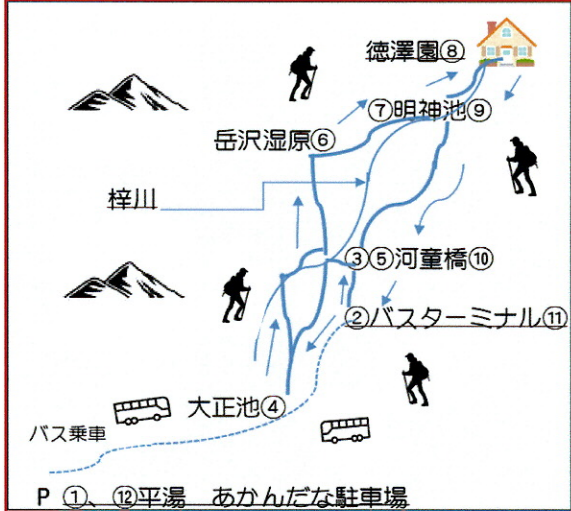


上高地周遊散策 (ハイライトシーン) [実施日—2022年10月11日~12日]



(メンバー) ——計6名 (弥生班)——木村、楠部、福本、上畑、有本 (会員外)——関

(上高地のロードマップ)



① (早朝の河童橋)



② (穂高連峰をバックに梓川右岸)



④ (焼岳をバックに大正池)



③ (焼岳をバック)



⑥ (西穂高をバックに河童橋前)



⑤ (大正池から穂高連峰を)



⑦ (明神橋から明神岳を望む)



⑧ (氷壁の宿 徳澤園)



⑨ (徳澤園から望む前穂高岳)



⑬ (ケーキセット)



⑫ (スイーツの舌鼓)



⑪ (上高地帝国ホテル)



⑩ (クマよけの鐘)



上高地周遊散策

紀峰山の会 (弥生班)

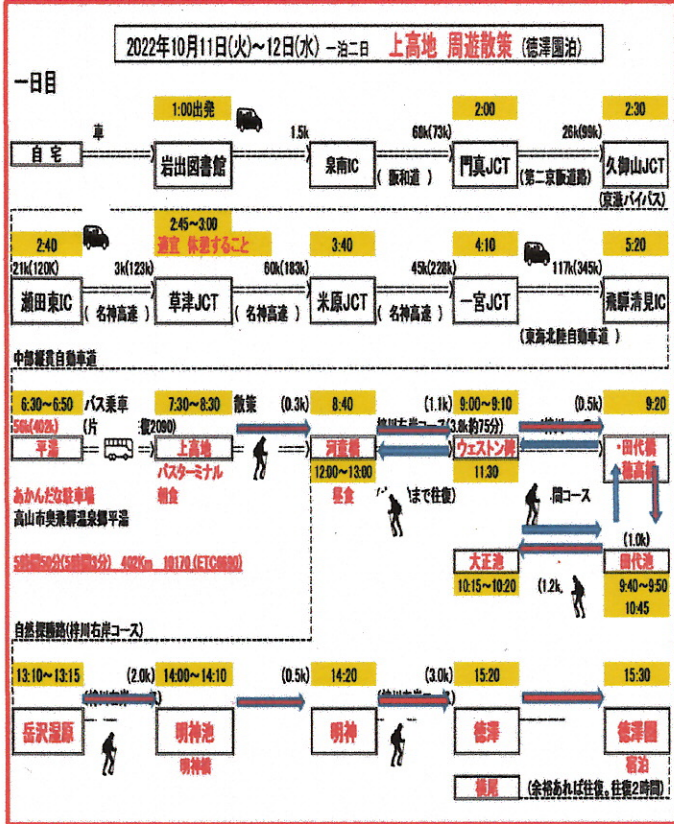
※(山行日) ---- 2022年10月11日~12日

(メンバー) -----計6名

(弥生班)---木村、楠部、福本、上畑、有本
(会員外)---関

※(行程) [予定] 1日目

※ (上高地のロードマップ)



2日目

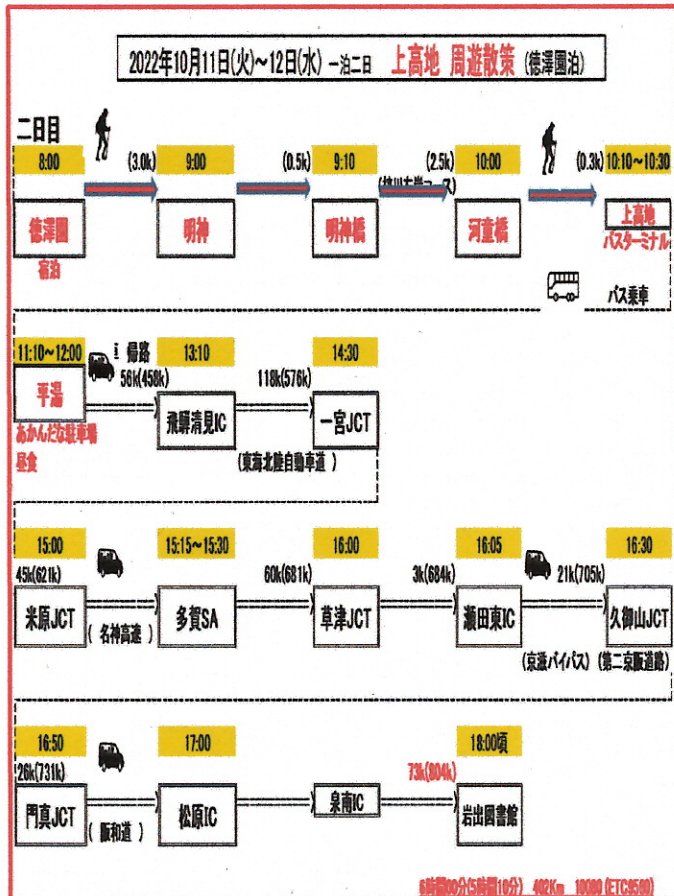
※[はじめに]

(上高地)

- 上高地は、長野県松本市にある日本を代表する山岳景勝地。上高地エリアに入れるのは、例年4月中旬~11月15日。
- 温泉があり、穂高連峰や槍ヶ岳の登山基地ともなっている。

(山行記録)

- 岩出図書館午前1時出発、5時間30分かけて平湯のあかんだな駐車場到着。上高地へはマイカー規制のため、シャトルバスを利用して現地到着。
- 今回の山行は、グルメの旅でもありバスターミナルでまず朝食。現地の天気はよく、梓川を下り大正池へ。大正池からは梓川右岸ルートで徳澤まで散策。徳澤園で宿泊しデナーを楽しむ。翌日は左岸ルートを散策し、帝国ホテルでスイーツを楽しみ、帰路では、飛騨牛弁当を食し楽しんだ。
- 穂高連峰がくっきり見え、大正池、明神池に映る山々が神秘的で、ゆったりとしたペースで散策でき、清々しい気分で風景を満喫した。

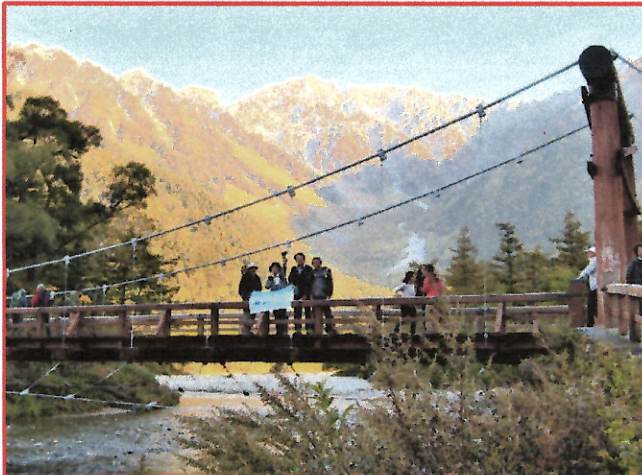


(写真1) (6:20 平湯あかんだな駐車場)



・和歌山を午前1時出発。5時間半のドライブ。
ここからシャトルバスにのり上高地へ。

(写真2) (穂高連峰をバックに河童橋で)



・天気はまずまず。気持ちが高ぶります。

(写真3) (河童橋の入口)



(河童橋の由来)

・上高地のシンボルともいえる河童橋。
昔、ここに河童が住んでいそうな深い淵があった。橋のなかった時代、衣類を頭に乗せて川を渡った人の姿が河童のようだった。
芥川龍之介の小説「河童」に上高地と河童橋を登場させた事が人気になった。

(写真4) (穂高連峰と梓川)



穂高連峰 / Hotaka M



(穂高連峰)

・穂高連峰は、飛騨山脈、通称北アルプスと呼ばれる山岳エリアの南部にあります。
主峰奥穂高岳 (標高 3,190m)をはじめとして、洞沢岳 (3,110m)、北穂高岳 (3,106m)、前穂高岳 (3,090m)、西穂高岳 (2,909m)などからなっている。

(梓川)

・(北アルプス) 槍ヶ岳を源流とし、急流を流れ下り、上高地付近で一旦緩やかに蛇行しながら流れ、釜トンネルからまた急流となる。松本盆地で木曾からの奈良井川と合流し、犀川と名を変え安曇野を流れ、千曲川、信濃川と名前を変え、日本海に注ぎ込みます。

(写真5) (穂高連峰をバックに梓川右岸)



(写真6) (ウェストン碑)



(ウェストン碑)

- ・英国人宣教師ウォルター・ウェストン (1861 - 1940) のレリーフ (浮彫胸像)。山案内人・上條嘉門次とともに北アルプスに挑み上高地の魅力の世界に称賛したため、その功労者としてレリーフを掲げられている。

(写真7) (焼岳をバックに梓川右岸で)



(焼岳)

- ・焼岳は北アルプス南部の活火山で、長野県松本市と岐阜県高山市にまたがっている。南北にピークを持ち、北峰は標高 2444m、南峰は標高 2455m で立ち入り禁止日本百名山の一座。

(写真8) (穂高連峰をバックに大正池で)



(写真9) (焼岳をバックに大正池で)



(大正池)

- ・活火山である焼岳が 1915 年 (大正 4 年) に噴火し、泥流によって梓川が堰き止められて形成された。
- ・池にある立ち枯れの木々の景観は、1928 年 (昭和 3 年) に「上高地」が史蹟名勝天然紀念物保存法による「名勝及天然紀念物」に指定される際の理由の一つとなったとのこと。

(写真10) (整備された遊歩道)



(写真11) (西穂高をバックに河童橋前)



- ・快晴。昼食後、再度、河童橋前から。

(写真 12) (明神池——その 1)



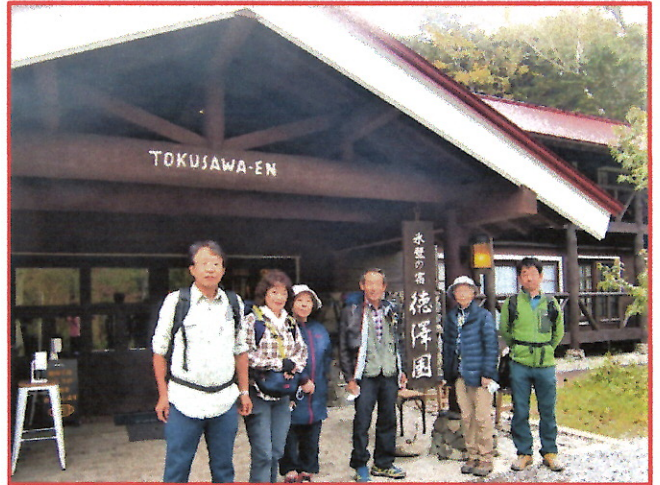
(写真 13) (明神池……その 2)



(写真 14) (明神橋から明神岳を望む)



(写真 15) (氷壁の宿 徳澤園)



・夕食に感動。(写真を撮るのを忘れました。)

(氷雪の宿 徳澤園)

- ・昭和の初め、ここは牧場だった。昭和 9(1934)年、北アルプス一帯が中部山岳国立公園に指定されると閉鎖され、牧場の番小屋だった建物は山小屋になった。
- ・キャンプ場より望む前穂高岳東壁は、井上靖(1907-1991)の長編小説『氷壁』の舞台。そこに登場する「徳沢小屋」が徳澤園だ。

(長編小説『氷壁』)

- ・1955年に実際に起きたナイロンザイル切断事件の切れるはずのないナイロンザイルが切れたために登山中に死亡した友人の死を、同行していた主人公が追う。友情と恋愛の確執を、「山」という自然と都会とを照らし合わせて描かれた小説。
- ・宿には小説や、実際のナイロンザイル切断事件の年表が飾られている。

(写真 16) (徳澤園から望む前穂高岳)



・翌日も天気がよく、朝の空気は最高!!

(写真 17) (帰路は、梓川左岸に行く)



(写真 18) (梓川左岸にあるクマよけの鐘)



(写真 19) (上高地帝国ホテル)



・上高地帝国ホテルは、日本初の本格的な山岳リゾートホテルとして昭和 8 (1933) 年開業。現在の建物は、昭和 52 (1977) 年に建て替えられたもので、スイス・アルプスの山小屋を思わせる赤い三角屋根と、丸太小屋風の外観は創業当時の趣そのままに、おもてなしの心でお客様をお迎えしている。

(写真 20) (ホテルでスイーツを楽しむ)



・『ケーキセット 1950 円』
高いが確かに美味しい。
コーヒーのお替りあり。

(写真 21) (信州産栗のモンブランを舌鼓)



・今回の目的の 1 つで、満足感の顔。

【最後に】

(トラブル)

○山行、散策中のトラブルは無かったが、帰路での車発車時ワンボックスカーの後ろドア(ハッチバック)が開いており、リュックサックを落としてしまった。駐車場の出来事で直ぐに気が付いたため大きな事故にはならなかったが、肝を冷やした出来事であった。

(感想)

○今回は、北アルプスの山々の風景や紅葉観賞とグルメの旅ということで、余裕のある行程で天気もよく、絶景により目の保養となり、飛騨牛や無農薬野菜、イワナ、スイーツなど舌鼓を打った旅ができ満喫しました。

○但し、内心は食べ過ぎて体重を気にするメンバーや、ゆったり過ぎて歩き足りないメンバーもあるかな〜あ？

私は、計画通りの旅ができ満足である。